



松 涛 の 風

No. 47 平成19年12月21日

渋谷区立松涛中学校 SHOTO Junior High School Tel (3469) 2451・2452

<http://academic1.plala.or.jp/shoto/>

【教育目標】○みんなを愛する生徒 ○自ら学び考える生徒 ○生き生きと活動する生徒

子曰。学而時習之。不亦説乎。

子曰く。学んで時に之を習う。亦た説ばしからずや。

校長 竹下 賢

光陰矢の如し。平成19年も残すところあと僅かとなりました。今年も悲喜こもごもいろいろなことがありました。保護者の皆様には、常にご理解とご支援をいただき誠に有り難うございました。来年も変わらぬご協力をいただきますよう、また、皆様にとって幸多き年でありましよう心からお祈りいたします。

知る喜び

冒頭のことばは、『論語』開巻第一章のことばです。ご存じのとおり、学習のよろこびを説いたものですが、「人知らずして 慍 おらず。」と続けているように、自分が勉強していることを人に知らしめて自らに利をもたらすことだけが目的ではないことを強調しています。私達も、勉強に限らず、日常的なことで「どうしてだろう」などと疑問に思ったことの答えが分かったりすると、「そうだったのか」と胸がすくようないい気持ちになります。日頃の勉強もしょうがなくやるのではなく、「知る喜び」を求めて行くと楽しいものになるに違いありません。

さて、先頃発表されたOECDによる国際学習到達度調査（57の国・地域の15歳を対象にした調査、略称PIISA）の結果によると、我が国の生徒の「読解力」や「科学的応用力」、「数学的応用力」は、一段と低下しています。とりわけ、考える力と学習に対する関心・意欲が、他の国に比べて極めて低い状況にあります。これは、日頃の学習において、自分で考えに考えて答えにたどり着く成就感・達成感を味わう経験が少ないことによるものだと思います。

今後、学校においても、生徒一人一人がじっくり考え、真に「分かった！」という喜びが感じられるよう、指導内容・方法の改善に力を尽くす必要があると痛感しています。

冬休みに入り、家族と過ごす時間が多くな

ると思います。子どもたちは、各家庭での何気ない会話から、あるいは、社会の出来事や人との出会いから、いろいろなことに興味・関心を広げ、「もっと知りたい」という気持ちになったり、「そうだったのか」と納得したりするものです。子どもたちの「知への欲求」が大いに刺激される冬休みであって欲しいと願っています。

分を知る 2007年の世相を表す漢字として「偽」が選ばれました。清水寺でこの字を揮毫した（書いた）森清範貫主は、「己の利ばかりを望むのではなく、分を知り、自分の心を律する気持ちを取り戻して欲しい」と話していたそうです。この「分を知る」という言葉を久しぶりに聞いたような気がして、なぜか納得するような気がしました。希望や目標は高く掲げるにしても、自らの地道な努力をせずしてただ高望みしたり、我欲を満たそうとするものであってはならないと自戒させられる思いです。

チョット一言

「光陰矢の如し」の意を、英語では Time flies.とか Time has wings.と言うようです。日本語では、時と言わず「光陰」と表しているところに日本文化の奥ゆかしさを感じます。年末・年始は日本文化の宝庫です。家族で紐解いてみましょう。

豊 かな 心 発 表 会

12月8日(土) 幡ヶ谷区民会館にて、本校2年生 三宅桜さん、横山つやさんが「渋谷区豊かな心発表会」に本校生徒代表として参加、発表をしました。

昨年11月から約1年間、4名の2年生有志生徒が慶應大学の協力を受け、インターネットを利用した教育交流プログラム(IEEP)に参加してきました。成果については先だって行われた11月の学習発表会で英語によるプレゼンテーションを行いました。

本発表会では、原稿をさらに日本語訳し、発表しました。概要は以下の通りです。

本年度のテーマは「環境」。ニューヨークの姉妹都市である東京、ローマ、ブダペスト、マドリード、イスラエルの同年代の生徒達がテーマにそって、互いのアイディアを交換しました。その後、自分たちに出来る地球環境保護を目的に、以下の様々な作品づくりに取り組みました。

- ① 4コママンガ：「大気汚染」「環境破壊」「エアコン温度設定」「エコバッグ利用」
「温暖化防止」「車から排出される有害ガス」
- ② リポート：「太陽光発電」「地球温暖化」
- ③ ニュースレター・エッセイ：「バイオマス発電」「ソーラーカー」
- ④ 環境に優しい発明品：環境破壊を体験できる「体験箱」
動物実験を体験できる「動物実験ロボット」
- ⑤ 実用品の作成：古着のTシャツを再利用したエコバッグ
- ⑥ LEGO プロジェクトへの参加：ブロックでのキャラクター作り、物語の作成

今回の発表会に参加した生徒の感想(一部抜粋)です。

「豊かな心発表会」では小学生は人権作文の発表、中学生はボランティア活動の報告や、環境問題に取り組んだ成果を発表しました。どれもとても興味深いものでした。小学生の作文からは「一人ひとりが持っている大切な人権」「少しの勇気がたくさんの幸せを生む」ことを学び、中学生の発表からは「誰かのために働くことで自分が気持ちよく、幸せな気持ちになれる」「無償で人に尽くす幸せ」ということが伝わってきました。人を思いやる心の大切さを実感しました。これからは少しでも人のために役立つことをしようと思いました。(2年A組 横山つや)

発表会の最後に、教育委員会の先生からの講評で「小学生は思いやる気持ちや差別について、中学生は地域貢献や国際交流についてよく考え、発表できました。」と誉められました。今回の発表全体を通して感じたことは、誰でもみんな何らかの「豊かな心の芽」を持っているということです。思いやるの気持ちや、周囲の人や地域への気配りなど、「豊かな心」の表し方には様々な方法があることを、改めて考えることができて良かったと思います。(2年B組 三宅 桜)

薬物乱用防止ポスター 入賞	1年B組	小 池	由 莉
薬物乱用防止標語佳作	3年A組	小笠原	美 幸
東京納税貯蓄組合総連合会会長賞	3年B組	土 屋	炎 伽
渋谷税務署長賞	3年A組	劉	伯 然
渋谷納税貯蓄組合連合会入選	3年A組	永 井	絵 麻
第13回サイエンス・グランプリ佳作	1年B組	小 池	由 莉